

目次

- | | | | |
|------|-------------------------|----|-----------------------------|
| P1-2 | 企画展『再論・重監房跡の発掘調査』を開催 | P3 | お知らせ |
| P2 | ～「戦争と平和」と「人権」と。～ | P3 | お客様の声（来館者アンケートより抜粋） |
| | みのぶ人権フォーラム 2025 開催のお知らせ | P4 | 重監房資料館★前橋出張トークイベント開催のお知らせ |
| P3 | 2025 年度館内燻蒸・消毒報告 | | 新作 DVD の上映会と DVD 企画者による制作秘話 |
| P3 | 2025 年度 来館者統計 | P4 | ご利用案内・アクセス |

企画展『再論・重監房跡の発掘調査』を開催

重監房資料館では、9月30日から2025（令和7）年度企画展『再論・重監房跡の発掘調査』を開催しています。本展は、2014年の開館以来、第二展示室ウォールケースにコンパクトに収めてきた常設展示「発掘調査による重監房の検証」を増補・充実するというコンセプトで準備しました。

企画展では、その導入で、重監房の位置について地図・航空写真資料等で改めて確認してもらい、解説サイン「建物の基礎」「重監房の間取り」「塀」「扉」「房」「房内の落書き」「便所」「医務室・宿直室」「電気設備」「収監者の食事」「収監者への差し入れ」「収監者の持ちもの」をコーナータイトルにみたとご案内します。解説板に小さく収めていた写真・図面を大きく引き延ばして見やすく、発掘調査報告書『重監房の発掘調査』から成果を知る上で欠かせない情報をピックアップして、わかりやすく示しました。

さらに発掘調査後、収蔵庫に収めていた遺物を、なるべく多く、この機会に展示することにしました。展示品の目玉は、重監房が監禁施設であった動かぬ証拠である大・中・小の錠でしょう。保存処理が終わって資料館に戻っていた実物を、企画展にあわせて初めて公開しました。是非この機会にご覧ください。

2013年に行われた重監房跡の発掘調査は、メイン展示となる第一展示室「重監房再現」のエビデンスを確保する目途で、①重監房再現に必要な建築部材、建築工法そして設備に関する情報を得るために行いました。そびえ立つ塀も、鉄筋コンクリート製の強固なものという伝聞とは異なり、実際は木骨モルタル製であったことが調査で明らかになりました。ほかにも「医務室・宿直室」跡での小破片以外に板ガラス片が認められないことから、房の明かり採りの窓にガラスははめられていなかったこと、大量の絶縁碍子そして電球の出土から、最低限の電気設備は敷設されていたことも判明しました。

テーマ①だけでなく、調査者が密かに期待したのは、②重監房が監禁施設である動かぬ物証を得ること、③収監者に由来する遺物を得ることでした。上述の大・中・小の錠の出土は、まさに②に対する期待に応えるものでしたし、③については、各房に敷設された便所の「便槽」内の調査で、想定以上の成果があげられました。

「収監者の食事」「収監者への差し入れ」「収監者の持ちもの」という解説板を掲げられたのも、①各房の床・壁に使用された板材・角材とともに、③に関わる豊富な出土遺物が得られたからでした。今回の企画展では、1房から8房の便所から出土した遺物について、改めてクローズアップしています。出土遺物は、収監者に差し入れをする支援者がいたことを暗示しており、房内に放置・監禁された収監者は、絶望の淵にあっても、ただ死を待つばかりでなく、生き抜くために精一杯、抗っていたと思われます。

発掘調査の成果は、多くの出土遺物を得て、重監房資料館の財産となっています。総動員体制を時代背景に建設された正式名称「特別病室」の欺瞞、今から顧みれば信じがたい運用が行われた懲罰施設「重監房」の実在、人権侵害をうけた収監者の悲惨を、考古学的手法によって掘り起こした遺物が雄弁に語りかけてきます。モノである遺物自体は沈黙していますが、五感を研ぎ澄まし、発せられる「言葉」に耳を傾けてください。展示物であるモノに



眼差しを送る私たちが、逆に「私がここにある意味はわかるか？」とモノに見られ、問われているという感覚に陥ることすらあるでしょう。

そして、発掘調査を伴う考古学といえば、縄文時代や弥生時代という古い時代を対象にしたロマンチックな学問だと思われる方が少なくないかもしれません。しかしながら、重監房跡の発掘調査は、文書記録、映像記録や証言記録が残されている時代であっても、ちょうど警察や消防が犯罪や火事場で行っている現場検証と同じアプローチが可能なことを示しました。たとえば、内容に対立する複数の証言があった場合には、どれが現場での状況証拠に合致するのかが追究されることになります。物証からの真相究明です。

そして「くりう」前号でも言及しましたが、2024年8月16日に文化庁は、「近世・近代の埋蔵文化財保護について（報告）」を公開し、近代における地下痕跡についても、文化財保護の対象にするという方針を示しました。文化庁報告の趣旨を踏まえるならば、ハンセン病療養所に遺された近代の地下遺構も、今後は埋蔵文化財保護の対象になる可能性がでてきたと言えるでしょう。2013年に行われた重監房跡の発掘調査は、先駆的な試みであったと評価される時代がきたのかもしれない。

ハンセン病療養所の永続化や将来構想に関連して、療養所内の歴史的建造物や史跡等の保存と活用に関する議論を進めなければなりません。その際「ハンセン病問題基本法」に触れられた「名誉の回復」事業に、重監房跡で試行されたような考古学的手法による調査も、今後は「国民共有の財産」である文化財保護と活用の観点を重ねて、積極的に行われるべきだと思うのです。

本企画展は、年度をまたいで2026（令和8）年6月末まで行います。この期間に、目下の近現代考古学に関するホットな動向も踏まえて、「重監房跡の発掘調査」の成果を再論いたします。（黒尾和久）

*学芸員によるギャラリートークを開催します。

2025年は、10月18日（土）、11月8日（土）、12月20日（土）の13時からです。

希望者は、第二展示室入口（企画展『再論・重監房跡の発掘調査』サイン前）に集合してください。

2026年1月以降の開催日は、ホームページおよび資料館だよりでお知らせします。

*「重監房跡の発掘調査」の成果を発表する近現代考古学のイベントに参加します。

10月29日（水）13～17時。鹿児島大学セミナー「近現代考古学の展望：病・戦争・産業遺産から考える現代社会への軌跡」対面・オンライン参加可能。

申込は10月1日からGoogleフォーム（<https://forms.gle/JiCm5rAQS9LMd7kz5>）で受付。➡

11月22日（土）13～17時。清瀬市郷土博物館「考古学調査の成果から見える療養所」。

対面参加のみ。申込は10月15日から電話042-493-8585で清瀬市郷土博物館まで。

新たなイベント情報は、逐次ホームページ等でお知らせします。



～「戦争と平和」と「人権」と。～ みのぶ人権フォーラム2025 開催のお知らせ

開催趣旨 戦後80年を迎えた節目の年。現代を生きる私たちは戦争の悲惨さ、平和の尊さ、そしてすべての人の人権を守る大切さを、次の世代にどう伝えていくかを問われています。本フォーラムでは1906（明治39年）に身延深敬園を創設し、生涯に亘りハンセン病患者の救済に尽力した綱脇龍妙上人（1876生-1970没）を紹介するとともに近現代のハンセン病問題史を振り返ります。専門家による講演会や園関係者の体験談の共有を通して、「戦争と平和」の意味を再確認し、ひとり一人が「人権の守り人」となるきっかけになれば幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

●会場 身延町総合文化ホール（山梨県南巨摩郡身延町波木井407）

●日時 2025（令和7）年12月6日（土）13時30分～16時頃（開場13時）

●参加費 無料 ●定員 先着200名

●申込方法 事務局へ電話かメールで（申込受付期間：10月23日～12月5日）

事務局 身延町教育委員会生涯学習課文化振興担当（甲斐黄金村・湯之奥金山博物館内）

Tel:0556-36-0015 E-mail:yunoking@town.minobu.lg.jp

●報告 深沢広太「綱脇上人関係資料継承事業について」（身延町教育委員会生涯学習課）

●講演 黒尾和久「総動員体制とハンセン病療養所～深敬園と重監房～」(国立重監房資料館)

●座談会 「深敬園の思い出～共に暮らした人々～」コーディネーター：黒尾和久

登壇者：中里敬子（深敬園施設長・綱脇上人孫）・塩沢和代（深敬園理事・元職員）

2025 年度館内燻蒸・消毒報告

9月2日から9月7日にかけて、重監房資料館全館燻蒸を行いました。この間、臨時休館をさせて頂き、見学のご計画を立てられていた方々には、大変ご迷惑をおかけいたしました。次回の燻蒸に向けて、できる限り、有害生物の侵入を防ぐよう、館内の環境維持を心がけていきます。館内随所に設置された昆虫調査用トラップも回収、設置をし直し、今後の資料館の資料保存管理に役立てます。



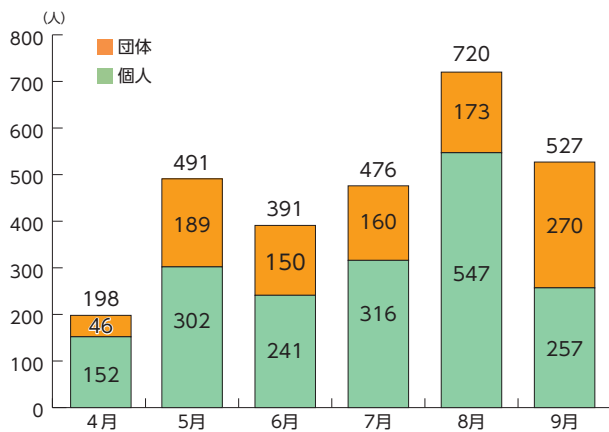
残留濃度測定（安全確認）



展示資料移動、復旧作業



2025 年度来館者統計



2025 年度入館者数 (4/1 ~ 9/ 末時点)

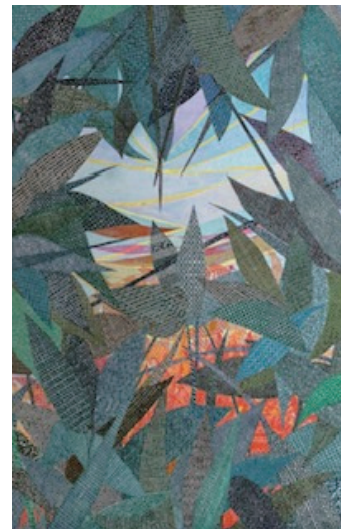
延べ 2,803 人 / 1 日平均 18.8 人
開館以来延べ 59,059 人

ホームページアクセス数

2025 年度 20,092 件 / 開館以来延べ 496,308 件

お知らせ

版画家小林くみこ氏より、ペン画作品「群馬県楽泉園重監房『熊笹は知っている』」の寄贈を受けました。(5月29日)



小林くみこ：兵庫県出身。
京都市立芸術大学(版画専攻)
卒業。春陽会読売新聞社賞、
日本・フランス・中国現代美術
世界展欧米賞他、多数受賞
歴あり。2023年夏には、沖
縄愛楽園交流会館において、
「俟時——小林くみこ展」を
開催。

群馬県楽泉園重監房
『熊笹は知っている』

お客様の声 (来館者アンケートより抜粋)

- ◎差別やデマがえん罪を生み、時が時であれば治すことができる普通の感染症なのに、容姿が変形等により、迫害を受けること、パンデミック（コロナ）でもそうだが、いつの時代でも起きうる史実とあらためて認識が変化した。(神奈川県、58 歳・男、会社員)
- ◎ハンセン病をさべつするのをよくないとおもった。(神奈川県、8 歳・女、小学生)
- ◎ハンセン病だからって、さべつするのはちがうと思ったし、ずっととじこめておくのはかわいそうだなーって思いました。(神奈川県、10 歳・女、小学生)
- ◎ハンセン病の一般の方々も隔離されていただけではなく、きちんとした罪状もあいまいなまま、戦後直後まで重監房に入れられ、人間としてまっとうに扱われないで房内で死亡した。精神を病んだことに胸が痛みました。ハンセン病の一般の方々も高齢化が進み、人数は減りましたが、もはや外で生活する人生を送れず、療養所で静かに暮らしていることを心にきざみました。(東京都、59 歳・男、会社員)

- ◎差別と偏見、無知は今も変わらないと、コロナ禍の下で強く思いました。状況によっては現代の重監房もありうる気がします。(群馬県、66 歳・女、自営業)
- ◎大学の授業でハンセン病について学び、見学するならどこが良いか伺ったひとつがこちらであり(N 大学 M 先生)、伺いました。人権を無視した実態、入所者が差し入れを行った旨など、両面での“人間らしさ”を見たように思います。(大阪府、39 歳・女、会社員)
- ◎すごく怖かったです。重監房を再現したものの中に入ると、暗いし、高い壁に囲まれた狭い空間に人がいたとは思えませんでした。国の人には、もっと人権のことを考えてほしいと思いました。許せない。(埼玉県、13 歳・女、中学生)
- ◎誤った差別意識が、直近のコロナ感染症にもつながっていると感じた。自分はもちろん、自分の周囲の人々が差別意識をもたないようにするために、どうすべきかを考えていきたい。(千葉県、50 歳・男、会社員)

今年もやります!

重監房資料館★前橋出張トークイベント開催のお知らせ

新作DVD『栗生の園に生きた証～ハンセン病問題から見える「今」～』の 上映会と栗生楽泉園の新旧両方のDVDを企画した戸澤さんの制作秘話

日 時 2025 (令和7) 年11月9日 (日) 13時00分～16時00分 (開場12時30分)

参加費 無料 (先着100名様、申込不要)

会 場 群馬県庁 2階 ビジターセンター (群馬県前橋市大手町1丁目1-1)

JR両毛線「前橋駅」下車、バス約6分「県庁前」下車すぐ

登壇者のプロフィール

戸澤 由美恵 (群馬県社会福祉士会ハンセン病福祉研究委員会 委員長)
(元高崎健康福祉大学准教授)



◀とざわ・ゆみえ

群馬県伊勢崎市生まれ。

1996年に栗生楽泉園を初めて訪問し、女性入所者の聴き取りを行う。2003年7月からは「ハンセン病問題に関する事実検証事業被害実態調査」の調査員として、栗生楽泉園の入所者・退所者への聴き取りを行う。

2010年4月に群馬県社会福祉士会にハンセン委員会 (現ハンセン病福祉研究委員会) が発足し、2012年度ハンセン病問題啓発DVD『栗生の園に生きた証～みんなのために～』を製作。

2017年より栗生楽泉園人権擁護委員会外部委員を務める。

現在、教育機関での人権学習や自治体・社会福祉法人での人権講演会・職員研修等を実施。



▲新作DVDのジャケット
入所者の鈴木時治さん (故人)
が描いた『カナリヤと少女』

司会・進行：黒尾和久 (重監房資料館部長)

主 催：重監房資料館 後 援：群馬県

〔お問合せ〕 重監房資料館 (担当：黒尾・鎌田) 電話：0279-88-1550

ご利用案内・アクセス

■開館時間■ 4/26-11/14 (通常期)：9：30～16：30 (団体は要予約)

11/15-4/25 (冬期)：10：00～16：00 (団体は要予約)

■休館日■ 毎週月曜日 (祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

■入館料■ 無料

■交通案内■ 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約25分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約7分、徒歩約45分

車利用の場合 渋川伊香保ICより約2時間10分 上田菅平ICより約1時間50分

(草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先200mの未舗装路をお入りください。)

重監房資料館「くりう」第29号【季刊】

発行日：2025 (令和7) 年 10月11日 / 企画・編集・発行 重監房資料館 / URL：https://www.nhdm.jp/sjpm/
〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553